

ことばに遅れのある幼児の指導

— 家族を共同指導者とした取り組み —

I はじめに	29
II 事例研究の実際	29
1 対象児	29
2 主 訴	29
3 生育歴等	29
4 対象児の実態	30
5 指導仮説	33
6 具体的課題の設定	33
7 指導計画	34
III 指導経過	36
1 「かかわり」の変化について	36
2 養育についての理解	52
IV 指導の成果と今後の課題	53
1 本児の目標について	53
2 両親の目標について	54
V おわりに	54

ことばに遅れのある幼児の指導

— 家族を共同指導者とした取り組み —

白 岩 嘉 之 *

この事例研究は、ことばに遅れのある幼児を対象に、ことばの発達の基盤である両親とのかかわりの改善を目指したものである。ここでは、両親が共同指導者として対象児と遊びを通してかかわり、その中で対象児の行動を理解し、適切に対応するようになったこと、また、両親の変容に伴って対象児も両親とのかかわりを求めるようになっていったことについて、その経過が述べられている。

I はじめに

ことばの発達の遅れは、知能障害、聴力障害、情緒障害などに起因することが多いが、環境（養育態度等）も大きな原因として上げることができる。子どもが要求や感情を伝える意欲を持つようになるためには、周囲の大人が子どもが出しているそれらのサインに気付き、適切に応じてやる必要がある。ところが、障害を持つ子どもの中には、ぐずる、泣くなどの自分の感情や要求の表現が乏しい子どももいる。そのため周囲の大人がこれに気付かないでいることがある。結果として大人から子どもへの働きかけが少なくなるということになる。子どもと親とのかかわりが乏しいままに時間が経過し、そのため、コミュニケーション能力の遅れ、ことばの遅れが引き起こされる。

本事例では、ことばの遅れた幼児とその両親とのかかわりを深めるために、両親に対して遊びを通してより適切に本児とかかわることができるように指導、援助を試みた。

II 事例研究の実際

1. 対象児 C児（男子3歳6カ月）

2. 主 訴 ことばの遅れ

3. 生育歴等

(1) 生育歴

・出生期 正常分娩，生下時体重：3,300 g，哺乳力：普通

・乳児期 栄養：混合，離乳：9カ月，首のすわり：3カ月，這い始め：9カ月，

歩き始め：1歳3カ月，運動機能の発達は特に遅れていなかったが，排泄の自立がうまくいかなかった。泣くことも少なく，手がかからなかった。また，授乳後は寝ていることが

* 特殊教育長期研修員（新潟市立内野小学校）

多かった。

(2) 家庭状況

- ・家族構成 祖父母、両親、姉（保育園児）。

平野部の農村地帯にあり、自然には恵まれている。祖父は農業に従事し、両親は勤めに出ている。そのため、主に祖母が本児の養育に当たっている。

(3) 相談歴

- ・県立教育センター、主訴 「ことばの発達の遅れ」

期間 昭和62年8月～昭和63年12月

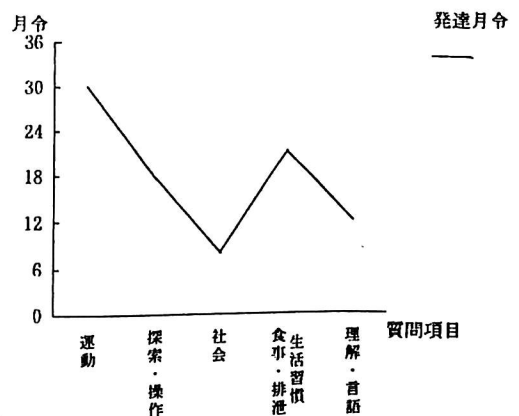
4. 対象児の実態

指導開始に当たり行動観察、家族との面接、各種の検査を行ない本児の実態を把握した。

(1) 全体発達

全体発達を「乳幼児精神発達質問紙（津守式）」の検査結果（図1）から見ると、「運動」は30カ月レベルで運動技能段階にあり、年令相当の発達段階である。「探索・操作」は18カ月レベルで、探索的試行から構成的操作へ移りつつある段階にあり、「社会性」は8、9カ月レベルで、おとなのかかわりを求めようとする段階にある。また、「食事・排泄・生活習慣」では、食事は習慣づけの段階に入っているが、「排泄・生活習慣」は、まだ、その段階までいっていない。「理解・言語」は12カ月レベルで話しことばの発生の段階に入ってきているが、相当年令を下まわっている。全体

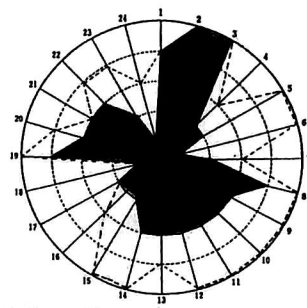
図1 「乳幼児精神発達質問紙（津守式）」



としては、発達年令16カ月半、発達指数44.6である。「CLAC-II」のサイコグラム（図2-1）から見ると、正常児との比較で、「食習慣」「書く」「読む」「集中性」の項目が同じである以外は、全体に落ち込んでおり、また、正常児の12カ月～16カ月のサイコグラム（図2-2）と言語面以外は酷似している。

以上の点から、言語面だけでなく全体的な発達の遅れがうかがわ

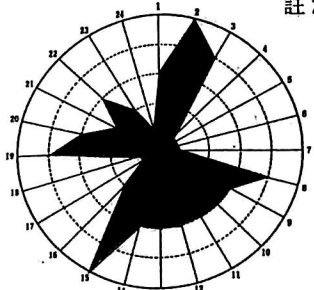
図2-1 精研式CLAC-II Psychogram 註1



（備考）1. 2. 3 食習慣
4. 5. 6 排泄
7 着衣
8. 9. 10 遊び
11. 12. 13. 14 対人関係
15 言語
16. 17. 18 表現活動
19 ハンドリング
20. 21. 22. 23. 24 行動の自律

発達年令 (D・A) 16.5カ月
発達指数 (D・Q) 44.6
〈昭和63年5月21日実施〉

図2-2 正常児12～16ヶ月 註2



本児 ———
正常児 - - - - -
(36ヶ月～42ヶ月)

れる。特に社会性の遅れが注目される。

(2) ことばの発達の様子

本児のことばの発達に関する実態を「ことば」「かかわり」「遊び」の面から見てみた。

① ことば

行動観察により、「ことば」の発達の様子について見た。

注意：自分の名前を大きな声で呼ばれても、振り向くことがあまりないが、笛やラッパを吹くと、音の発する方を向く。

理解：持っているマラカスやラッパを何度も「ちょうだい」というと渡すときがある。

別の部屋に移動する際に、「こっちだよ。」と声掛けをするとついてくる。

表現：ブロック運びをしながら「ヨイショ」、頭をぶつけて「イタイ」、マラカスのやりとりで「イイヨ」など場面にあったことばがいくつかでるときがある。

「時計」「電灯」「カレンダー」に対して「トー」「アー」などと声を出しての指差し行動が見られる。

泣く、ぐずる、つぶねるなどの拒否表現は見られない。

検査の結果では、「言語行動発達尺度」（表1）で「言語理解」は16カ月、「言語表現」は8カ月と低く、行動観察の結果を裏付けている。

また、「S-M社会能力検査」（図3）の結果から「集団参加」では順番が理解できず、「自己統制」では、ことばで言われて待つことができない点がチェックされた。

② かかわりの発達の様子

行動観察により「かかわり」の様子について見た。

- ・トランポリンで、指導者が手をとってかかわりを持とうとするが、すぐに離してしまう。
- ・「バイバイ」と声をかけると振り返って手を振るが、その他の場面で呼び掛けても、振り返えることが少ない。
- ・自分から一緒に遊びようとする様子は見られない。かかわる相手とは視線が合う。
- ・正面から抱っこされることは嫌がり、後ろからおんぶするようにして甘える。

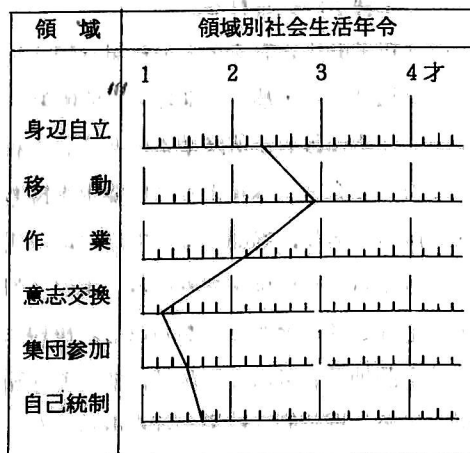
「言語行動発達尺度」の結果（表1）では、「人に対する興味」が7カ月と低く、「乳幼児精神発達質問紙」でも「社会」が8カ月と低い。個々の質問項目を

表1 「言語行動発達尺度」

カテゴリー	粗点	年令得点
I 全体的運動	22	2-5
II 言語器官の運動	14	3-6
III-a 外界への興味 (人に対する)	12	0-7
III-b 外界への興味 (事物に対する)	17	1-0
IV 言語理解	17	1-4
V 言語表現	9	0-8
総得点(通過項目の合計点)	91	1-3

＜昭和63年5月21日実施＞

図3 「S-M社会生活能力検査」プロフィール



社会生活年令(S・A)20カ月

社会生活指数(S・Q)59

＜昭和63年5月14日実施＞

見ると、「後追いをしない」「他の子どもとのかかわりを持たない」「注意されても分からない」等がチェックされた。

以上のことから、人に対する興味、関心の希薄さをうかがうことができる。

③ 遊びの発達の様子

行動観察から「遊び」の様子を見た。

- ・ミニカーを並べたり、オモチャの電車を手で持ち、線路の上を動かしたりする。また、受話器を持って「アーアー」と声を出す。指導者が応答しても関心を示さない。
- ・ベニヤ板で作ったスロープに上り、走り降りる動作等を繰り返すことがある。
- ・自動車のりでは一人で遊戯治療室の中を動き回る。動きは早く、運動能力は高い。指導者の乗っている自動車について回ることもある。ハンドルを動かすことに興味を持ち、盛んに動かす。
- ・親が家でしているファミコンカセットの出し入れやゴミ落としの延滞模倣をする。
- ・遊戯治療室で人形やままごと遊具を用意し働きかけても興味を示さず、感覚運動遊具の限られたものしか使わず、遊びが非常に乏しい。

これらの様子から、「まねっこ遊び」「ごっこ遊び」などをすることは難しく、感覚運動遊びの段階である。

(3) 家族の本児へのかかわり方の様子

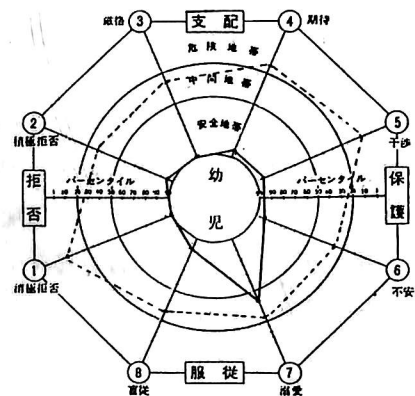
家庭では、両親が日中勤めに出ており、また休日にも買物やドライブに連れていくことが多く、子どもと一緒に遊ぶことが少ない。祖父は家にいるが、農業をしているため、本児とかわることが少ない。祖母が本児の育児を担当しているが、畑仕事や家事などのためあまりかまわない。

家族は本児を可愛がってはいるが、ことばが出ない点だけにとらわれて無理にことばを言わせようとしたり、本児の行動に対して指示的になることが多い。

観察場面でも、「バイバイ」を強制したり、「ダメ!」ということばかけなど、注意や叱責をしたり「Tちゃん、Tちゃん」と本児の名前をうるさい程に呼ぶ様子が見られる。

田研式親子関係診断テストの結果(図4)を見ると父親は、「干渉」「期待」「消極拒否」「矛盾」「不一致」が危険地帯にある。これは本児に対して発達レベルより高い要求を持ち、干渉しがちであり、場面によっては対応が異なるという矛盾した結果が読み取れ、本児に対する不安定な心理状態がうかがわれる。母親は溺愛が「中間地帯」にある以外は、すべて「安全地帯」にあり理想的な結果が読み取れるが、これは本児とのかかわりの様子から推測すると、本児にこのように接したいという願望として理

図4 田研式親子関係診断テスト



型	父	母
9.矛盾型	5	99
10.不一致型	5	99

父親
母親 ——

〈昭和63年7月16日実施〉

解することができる。

(4) 総合所見

行動観察、各種検査から、本児の発達はいくつにわたって遅れていることが明らかになった。特に、人とのかわりや言語理解、意志交換の面が低い。これは、家族の育て方や接し方がうまくいっていないことが大きく影響していると考えられる。そのため、本児の場合は、人とのかわりに興味・関心を向けない点や家族の養育態度に着目し、この点の改善を図る指導が必要である。

そこで、実際の指導にあたっては、

- ・人とのかわりに興味・関心を向けさせる。（本児の指導）
- ・本児の成長に直接影響を与える養育のあり方について、指導をする。（両親の指導）

これらについて、もう少し詳しく述べる。

ア 人とのかわりに興味・関心を向けさせることについて。

両親の話から本児は、人とのかわりの中で満たされたり、人とかかわって楽しいという満足感を味わったりする体験が少なかったと推察する。

そこで、人とのかわりに興味関心を向けさせるためには、幼児期の生活の中心である遊びに着目し本児の興味や発達レベルに合う遊びを共にする中で、人と一緒に遊ぶことの楽しさに気付かせていくことが大切である。そこから徐々に周囲の人とのかわりに関心を持つようになることを考える。

イ 両親の養育態度について

両親とのかわりの希薄さ、感情表現の乏しさ、遊びの乏しさなどは、両親の養育態度に因るところが大きい。子どもが発していることを的確に受け止め、ことばや動作で適切に返してやることなどがよくできなかったために本児のコミュニケーション能力の遅れが生じたと考えられる。

そこで両親が本児と一緒に遊ぶ機会を設け、遊びを通して両親に本児との望ましいかわり方に気づき、身につけてもらう必要がある。

5. 指導仮説

本児の発達の様子や家族のかわり方の実態から、指導仮説を次のように設定した。

本児の出しているサインを受けとめ、適切に返してやることで、人とのかわりへの意欲が増し、身振りや音声で要求、感情、意志を伝えるようになるだろう。

6. 具体的課題の設定

本児については「かわりの発達」を、また、家族については、「かわり方の改善」を課題としてあげ、具体的に次の目標を設定した。

(1) 本児の目標

- ・簡単な働きかけに応ずることができるようにする。

- ・身振りや音声で要求や感情、意志を伝えることができるようにする。

(2) 両親の目標

- ・子どもの身振り、表情、声などから、子どもの要求や感情、意志を受けとめ、適切に応ずることができるようにする。
- ・望ましい養育についての知識・理解を深めるようにする。

7. 指導計画

(1) 指導期間、場所、時間、回数

昭和63年4月～12月・県立教育センター遊戯治療室・隔週1回・90分（相談時間も含む）・20回

(2) 指導方法

〔遊びを通しての指導〕

- ・本児、両親の目標を達成するために幼児期の生活の中心である遊びを通して指導にあたる。
- ・指導者は、本児が「何を使って、誰と、どのように」遊びたいのかをキャッチし、本児の動きに合わせながら一緒に遊ぶ。遊びの中では、指示的な働きかけを避け、共感的な態度で接する。
また、本児の動きや感情、意志などをことばで表現してやるように努める。
- ・両親には積極的に遊戯治療室での指導（以下、プレーと記す。）に参加してもらい、ビデオに撮ったプレーの様子を面接場面で検討し、本児とのかかわりを身につける。

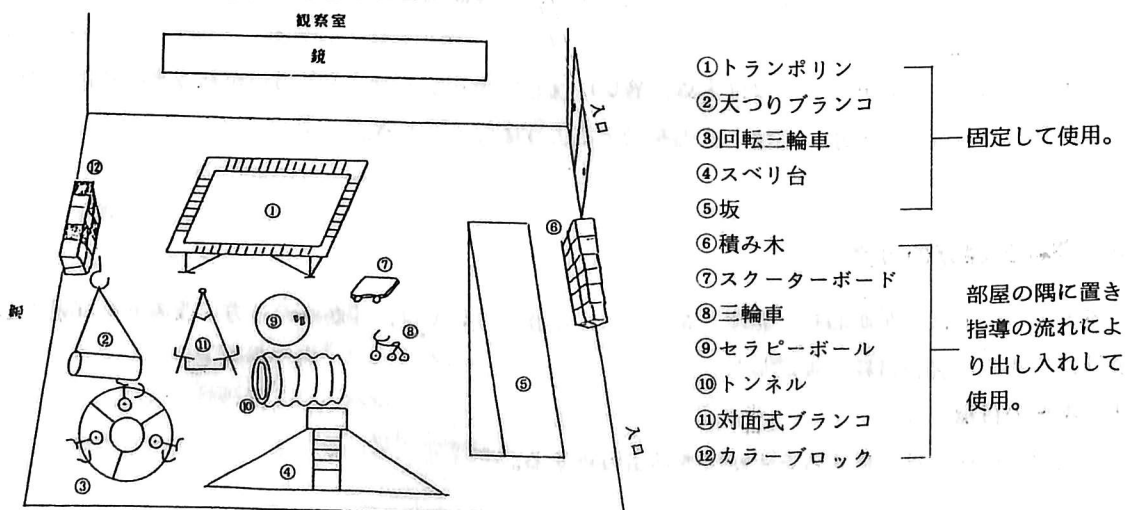
〔面接を通しての指導〕

- ・「遊びの表」を用意して、家庭での遊びの様子を記入してもらい、その表をもとに家庭での遊び方望ましい接し方について話し合う。
- ・分かりやすい文献を紹介し、遊びの指導やことばの指導についての知識・理解を深める。

(3) 遊具の設定

本児の遊びの実態から、感覚運動遊具を使い、図5のように設定した。また、子どもが見通しをもって遊びに取り組むことができるように、毎回同じ遊具を準備し、同じ場所に設置した。

図5 〔遊戯治療室〕



(4) 評価方法

① コミュニケーション行動について

各プレー場面の約5分間を抽出し、本児と両親とのコミュニケーション行動について、表2、表3に記す行動分析カテゴリーを用いて分析した。

表2 〔親の行動分析カテゴリー〕

分析項目	具 体 的 内 容	分析項目	具 体 的 内 容
感情・受容	本児の行動に対する感情的なことばや動き 本児の行動を受容し、それを明確化することばや動き	禁止・修正	禁止したり、修正することばや動き
		発 問	答えを求めるようなことばかけ
		促 し	行動を促すことばや動き
賞賛・激励	賞めたり激励することばや動き	そ の 他	上記の項目に入らないことばや動き
指 示	指示したり要求することばや動き		

図3 〔本児の行動分析カテゴリー〕

分析項目		具 体 的 内 容	分析項目		具 体 的 内 容
動	自 発 的	自ら目的を持ってする動き	親 へ の 視 線	注目・観察	親を注目したり観察するように見る
	応 答 的	親の働きかけに答える動き		誘 い かけ	親に誘いかけたり，働きかけるように見る
	誘 い かけ	親に働きかける動き		そ の 他	上記の項目に入らない視線
	無視・拒否	親の働きかけに対して無視・拒否の動き	音 声	感 情	喜怒哀楽を表現している音声
そ の 他	上記の項目に入らない動き	応 答		親の働きかけに応える音声	
				誘 い かけ	親を誘いかける音声

② プレー場面の雰囲気、行動の適切さについて

本児の働きかけに対する反応や感情表現などを表4を用いて評価した。これらの側面の評価は、両親との遊びに対する本児の意欲の程度を表すものである。

両親のプレー場面における子どもからのサインの受けとめ方、働きかけ方について、タイミングや具体的方法の良否を表5を用いて評価した。

表4 子どもの行動評価

子どもの行動評価		月	日	父・母
1. 親に反応	ない あまりない 場面によってある ある			
2. 模倣	しない 1, 2回 3, 4回 する			
3. 誘いかけ	応じない 1, 2回 3, 4回 応ずる			
4. 指差し	ない (伝達 応答 要求 ある			
5. 音声	ない (感情 応答 要求 ある			
6. 身振り・表情	ない (感情 応答 要求 ある			

表5 親の行動評価

親の行動評価		月	日	父・母
1. 親の反応	良好 あまり良くない 少し良い 良い			
・子どもとの位置関係				
・子どもとの目の高さ				
・子どもとの身体接触				
・子どもへのことばかけ				
・子どもに対する表情				
2. 受容				
・子どもが表現したことをキャッチしたか。				
つかんでいない あまりつかんでいない 少しつかんでいる よくつかんでいる				
・表現したことに適切に返してやれたか。				
①タイミング				
返さない あまり返さない 少し返す 返す				
②ことば				
③動作				
3. 援助かけ				
・子どもをタイミングよく誘い込む。				
望ましくない あまり望ましくない 少し望ましい 望ましい				
・子どもを引き付けるような動きをする。				
・ことばの早さ、大きさが適切である。				

Ⅲ 指導経過

本児は、両親と一緒に20回来所した。第1～3回は、観察期間として本児と両親の実態を把握し、また、具体的な指導目標、指導方法について検討した。第4回以降は目標達成のため、プレーと面接場面での指導を行なった。

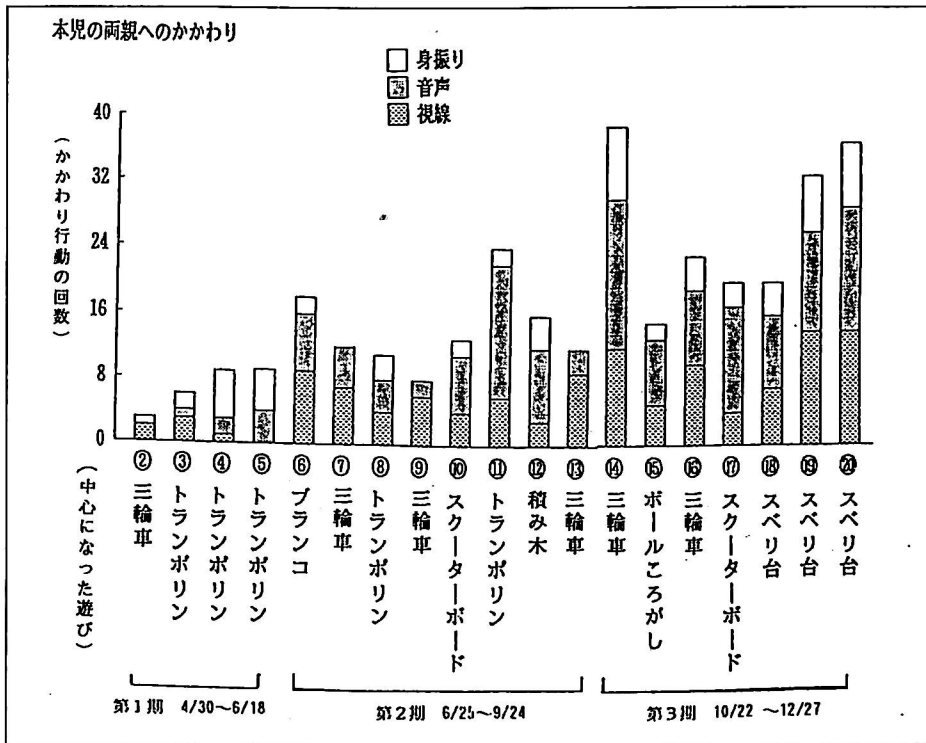
以下、本児、両親の変容の経過を、「かかわり」の変化と、養育についての理解に分けて述べる。

1. 「かかわり」の変化について

本児の変容を見るために、各回の遊びの場面をVTRに録画し、プレーの中で最もかかわりの多い場面(約5分間)を取り出して、本児の両親に対する行動(「身振り=促しに応える動作、誘いかける動作」「音声」「視線=注目・観察、誘いかけ」)の回数を数えて、かかわりの変化を見た。図6は、各回の抽出場面における行動の回数と、中心になった遊びをまとめたものである。これを見ると、(1)かかわりが少ない指導開始から第5回まで、(2)かかわりが増えだした第6回から第13回まで、(3)かかわりが多くなった第14回から第20回、の3つの時期に分けることができる。

以下、各時期における本児と両親の変容について述べる。

図 6



(1) かかわるきざしが見られる。（4～6月ころの様子）

この頃の本児は、プレー中に音声も少なく、伏し目がちであった。また、両親が脇にいてもその存在を意識していないかのような様子も見られた。しかし、おとなの働きかけに対して、それに応えようとするきざしは見られた。両親は、本児とどのように遊んだら良いのか分からず、ただ本児の動きを見ているだけで、ことばかけもうまくできない状態であった。そこで、指導者が本児と一緒に遊び、その様子を両親に観察してもらい、どのように遊んだらよいかを理解してもらうこととした。

第4回 6月11日 「視線を合わせたり、声を出すことが少ない」（トランポリン・約4分）

数字=動き ○数字=ことば・音声 C=本児 F=父親 T=指導者（ことば） G=祖母（ことば）

大 人 の 行 動	本 児 の 行 動
1. Fが抱き上げトランポリンにのせる。 2. FがCのズボンの裾を直す。 3. トランポリンにあがり、ズボンを上げ直す。 4. Fが手を出して、跳ぶ。 T 「ピョンピョンピョンピョン、上手上手上手」 T 「オットットット、うまいうまい。」 F①「あ～あ」 5. 両手をつかみ、起こす。 6. 跳ねる。	1. トランポリンの上でとび跳ねる。 2. ズボンを上げてもらう。 3. Fの手を握って跳ぶ。 4. 手を離し、一人で跳ねる。 5. バランスを崩してFの足元に倒れる。 6. 起きる。

T 「ピョンピョンピョン」

F②「ピョンピョン」

T 「ハイ、ピョンピョン、うまいうまい、ハイ、もう一回。」

T 「Cちゃん、ピョンピョンして、あつ、こんどは後だ。ピョンピョン」

T 「うまい、うまい、上手だ。」(拍手)

7. 前向きで、手をつかみ跳ねる。

G 「おきれ、ほら、たっ だで、たっち、たっち」

F③「たっち、たっち」

8. 手をたたく。

T 「おっ、頑張れ、おっ、立った、立った、上手、上手」

9. Cの手を持って跳ねる。

10. トランポリンを揺する。

T 「さあ、立てない、さあ、どうする。」

G 「たっちして、ほら、たっち」

11. Cの顔を覗き込んでトランポリンを強く揺する。

T 「おっ、おー、困った 立てるか、あー残念。」

G 「立って。」

12. 揺らすのをやめる。

T 「あー、立った、よしよし。」(拍手)

13. 手を持って跳ねる。

T 「ピョン、ピョン」

T 「うん、ゴミだ。」

G 「目が回るぞー。」

T 「ピョンピョン」

14. トランポリンを揺する。

Tが手を出す。「ゴミ、ちょうだい。ありがとう。」

T 「下りるの?ハイ。」

7. 手をつないで跳ねる。

8. Fの後に回り抱き付く。

9. Fの手をつかみ跳ねる。

10. トランポリンに仰向けに倒れる。

11. Fの顔を見る。

① 「あー」

12. 立ち上がる。

13. 手をつないで跳ねる。

14. バランスを崩して転ぶ。

15. 腹ばいで、揺られている。

16. トランポリンのふちの糸を引っ張る。

17. 座り込んでゴミをいじる。

18. 立とうとするが立てない。

19. 立ち上がる。

20. 頭、顔と順に両手をやり頭を振る。

21. 手を自分から出して跳ねる。

22. 手を離し、下のゴミを拾う。

23. 顔を手で隠すようにして、トランポリンの上でクルクルと回りながらゴミを落とす。

24. 一人で跳ねる。

25. 座る。

26. ゴミをいじる。

27. 立ち上がる。

28. ゴミを放して両手をたたく。

29. トランポリンから下りる。

② 「ヨイショ」

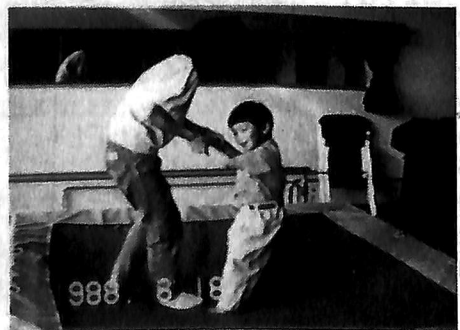
<写真1>

父親の後に回って跳ぶ。



<写真2>

母親と手をつないでトランポリンを跳ぶ。



第5回 6月18日 「視線は合わないが、身振りや音声があった」（トランポリン・約4分）

数字=動き ○数字=ことば・音声 C=本児 M=母親 T=指導者

大 人 の 行 動	本 児 の 行 動
1. 両手をつないで跳ねる。 ① 「ピョン、ピョン、ピョン、ピョン」 T 「あら、転んだ」 2. 手をとって起こし、そのまま跳ねる。 ② 「ピョンピョンピョン」 ③ 「いいなあ、ピョンピョン」 ④ 「ほら、ピョンしてごらん、跳んでごらん。」 ⑤ 「ほら、ピョン、Cちゃんは、Cちゃんは、跳んでごらん。」 ⑥ 「ピョンピョン跳んでごらん、ピョンピョン」 T 「うまい、うまい」 ⑦ 「Cちゃんは、Cちゃんは。」 Tがトランポリンにあがり、片手を持ち3人で跳ぶ T 「さて、先生も一緒に入るかな。一緒、一緒。1、2. 1, 2. ヨイショ、ヨイショ、おーうまい。跳んだ、跳んだ。」 ⑧ 「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」 3. Cの腕を抱くように持って跳ぶ。 T 「おかあさんの後がいい、じゃあ、後にくっついて跳んで。」 ⑨ 「ピョン、ピョン、ピョン」 T 「うあー、上手、うまい、うまい」 ⑩ 「まだ、Cちゃんとぶの、ヨイショ、ヨイショ、」 ⑪ 「ハハハハハ」 T 「ヨーイショ、ヨーイショ、ポーンポーン」 ⑫ 「ポーンポーンポーン」 T 「あー、だめかなCちゃん」 ⑬ 「あー、疲れちゃった。」 T 「疲れたかな。今度前に回ってみようかな、ママ疲れたって」 ⑭ 「あー、疲れちゃった。」 4. Cを前に出して両手を持って跳ぶ。 T 「おっ、うまいうまい」 ⑮ 「ヨイショ、ピョンピョン」 5. 時計を見る。 T 「時計」 ⑯ 「なになに、時計、カチカチ、時計でしょ。」 T 「おっ、また後に回った、はい、やってください。ヨイショ、ヨイショ、うまいうまい。」 ⑰ 「アッアッ、ヨイショ、ヨイショ」 ⑱ 「ヨット、ヨイショ」 T 「お母さん、足腰疲れた。」 ⑲ 「疲れた。」	1. 両手をつないで跳ねる。 2. バランスを崩し転ぶ。 3. 立ち上がる。 4. Mの後に回ろうとする。 5. 両手を持たれて跳ぶ。 ① 「アハハハ、ハハハハ」 ② 「ハハハハ」 ③ 「ハハハハハ」 6. Mの後に回ろうとする。 7. 両側から手を持たれて跳ぶ。 8. 手を離し、Mの後に腰に抱きつく。 9. 後にくっついて跳ぶ。 10. バランスが崩れ、転びそうになる。 11. 手を握って跳ぶ。 12. 手を離し、時計の方を指差す。 ④ 「アッー、アッー」 13. Mの後に回り、一緒に跳ぶ。 14. 少しバランスを崩す。

6. Cを前に出して手をつないで跳ねる。 ⑳ 「まだ、できるの」 7. Cの手をとって座らせる。 T 「もう、おやすみかなゴローン」 ㉑ 「ゴローン」 8. 一緒に跳ぶ。 ㉒ 「今度、Cちゃん、跳んで」 ㉓ 「ヨイショ、ヨイショ」 T 「うまい、うまいなあ」 ㉔ 「うわぁースゴイ。」 9. 手を離す。 ㉕ 「こんど、ゴローン、してごらん。」	15. 手をつかんで跳ぶ。 16. すぐに立って跳ぶ。 17. 一人で跳ぶ。
--	--

① 実践事例のコミュニケーション分析

表6, 7の各分析項目の数字は, 第4, 5回の実践記録(P37~P40)で本児と両親のことば, 行動に付した数字と対応している。また, 各項目の百分率は, 各回の全行動回数との比率を表している。

〔本児のコミュニケーション行動〕

本児の表を見ると, 応答的動作の数は変化がないが, 自発的動作では5回目には減っている。これはトランポリンあそびということもあり, 両親の促し行動が増えたことによると考えられる。また, どちらの回も両親に対しての視線がほとんどない。トランポリンで, 両親の後に回る動きが見られたことから, 両親の視線を避けていると思われる。音声はどちらの回も少ないが, 4回目の「アー」「ヨイショ」という掛け声のようなものから, 5回には, 「ハハハハ」と, 快の音声が出てきており, また, 手を出すつつかんで一緒に跳ぶなど, 母親からの働きかけに応じるようにする姿も見られた。

〔両親のコミュニケーション行動〕

両親の表を見ると, 第4回目は行動量全体が少なく, 特に本児に対する声かけが少ない。また, 「促し」が全体の70%と多く, 「感情・受容」が12%と少ない。これは父親が本児とどのようにあそんでいいのか分からないためと思われる。5回目で「促し」が54%, 指示的なことばかけが14%である。本児の遊びに合わせた動きはほとんど見られず, 母親が思いついた遊びに本児を引っ張ろうとしている。

表6 本児の行動分析(第4回・5回)

数字=動作・視線 ○数字=音声

分析項目 指導回数	動 作					親に対する視線			音 声		
	自 発 的	応 答 的	誘いかけ	無視・拒否	そ の 他	注目・観察	誘いかけ	そ の 他	感 情	応 答	誘いかけ
第4回	1. 4. 8. 12. 16. 17. 19. 22. 24. 25. 26. 27. 28. 29.	3. 6. 7. 9. 13	21.		2. 5. 10. 14. 15. 18. 20. 23.			11.	①②		
	45%	16%	3%		26%			3%	6%		
第5回	4. 6. 8. 12. 16. 17.	1. 3. 5. 9. 11. 13. 15.			2. 7. 10. 14.				①②③		④
	29%	33%			19%				14%		5%

表7 両親の行動分析（第4回・5回）

数字=動作 ○数字=ことば

指導回数	分析項目	感情・受容	賞賛・激励	指 示	禁止・修正	発 問	促 し	そ の 他
第 4 回 (父親)	① 13.						②③ 1. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12.	2. 3. 12.
	12%						70%	18%
第 5 回 (母親)	③⑪⑬⑭⑯ ⑰⑲⑳ 7.			④⑤⑥⑳㉑		⑩㉒	①②⑦⑧⑨ ⑫⑬⑭⑮⑯㉓ 1. 2. 3. 4. 5. 6. 8. 9. 10. 11.	12.
	24%			14%		5%	54%	3%

② 4～6月までのプレー場面の雰囲気

表8は、各回のプレーにおける両親の雰囲気や、表情、働きかけのタイミング等について評価して結果を示したものである。

また、表9は、本児のプレー全体における両親への親密感や働きかけに対する反応、誘いかけ行動の様子について評価したものを表している。

表9からは、両親への親密感、遊び場面での表情など、全体が改善の方向にあることが分かる。第1回、2回では、遊びに誘いかけてもなかなか応じなかったが、第3回以降、トランポリンなどで手を出すとつかまって一緒に跳ぶようになり、徐々に誘いかけに応じるようになってきた。しかし、トランポリンあそびの中で急に両親の後に回る動きや、本児の乗っている対面式ブランコに親と一緒に乗ろうとすると別なところに行ってしまうなど、かわりを避けようとする様子も時折見られた。

表8を見ると、全体にまだ、低い評価段階にあるが回を追うごとに好転していることが分かる。遊び場面での表情や目の高さ、本児への働きかけ方などに変化が見られるようになった。これは、指導者と本児の遊びの様子を見て、少しずつ本児との接し方、あそび方が分かるようになってきた結果である。

表8 「親の行動評価表」（指導日のプレー全体） 4～6月

○数字は指導日の回数

項目\段階		I	II	III	IV
親 密 感	位 置 関 係	①②③	④⑤		
	目 の 高 さ	①②	③	④⑤	
	身 体 接 触	①③	②④⑤		
	こ と ば か け	①②④	③⑤		
	表 情		①②③④⑤		
受 容	表現をキャッチする	①②	③④⑤		
	返すタイミング	①②	③④⑤		
	返すことば	①②④	③⑤		
	返す動作	①②	③④⑤		
働 き か け	タイミングのよい誘い	①②	③④⑤		
	引き付ける働き	①	②③④⑤		
	ことばの早さ、大きさ	①②③④⑤			

表9 「本児の行動評価表」
(プレー全体) 4～6月

○数字=指導回数

項目\段階	I	II	III	IV
親 密 感	①	②③④⑤		
模 倣	①②	③④⑤		
誘 い か け	①②	③④⑤		
指 差 し	①④	②③⑤		
音 声	①	②③④⑤		
身振り表情	①	②③④⑤		

(2) 視線や発音が増える。 (6～10月ころの様子)

この時期の本児は、視線や音声が増え、表情も明るく親密感も増してきた。両親も本児の動きを受容し働きかけることも増えてきた。しかし、遊びの種類やその日の体調によっては、かかわりがあまり見られないこともあり波があった。この時期は、プレー時間の前半を指導者が、後半を両親が担当し、両親と本児のプレー中に指導者は声かけや指導を控え、面接時にビデオを再生して場面検討し、指導者がかかわり方について評価し指導した。この時期からは、本児と両親とのかかわりの場面を多くすることをおねらいとした。

第6回 6月25日 「甘える様子が見られた」 (ブランコ・約5分)

数字=動き ○数字=ことば・音声 C=本児 M=母親 T=指導者

おとなの行動	子どもの行動
1. ブランコに乗る。 T 「よし、乗るか。」抱きあげて乗せる。	1. Mの前にきて、ブランコに乗ろうとする。
2. ブランコを揺らす。 ① 「ヨイショ、ブランコ」 T 「揺れる、揺れる。」	2. Mに抱き付き、顔を見る。
② 「ウァー、ウァー、ウァー、Cちゃんブランコ」 T 「ブランコ揺れて～」 T 「おー、スゴイ。」	3. 揺られながら、天井や床、回りを見る。
③ 「うぁー、ハハハ、スゴイナァー」	4. Mの顔を見る。
3. 抱くように背中に手を回す。 ④ 「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」 T 「スゴイ、スゴイ」	5. ブランコに立ち上がり天井を見る。
⑤ 「うぁー、立っちゃった。いいなぁ。」 ⑥ 「ブランコ」	6. Mの顔を見る。
⑦ 「アハハハ、イイナァ、スートン、スートン。」	7. ブランコに座り、揺られる。
4. 背中を軽くたたく。 T 「あれ、ねんねしたかな、おや、おや。」	① 「アハハハハハハ」
⑧ 「おや。」 T 「バァー」 ⑨ 「バァー、ブランコ」	8. Mの顔を見る。
⑩ 「ブランコ、ユーラリ」	9. Mの胸に顔をつける。
5. 時計を指差す。 ⑪ 「あれ、あれかね。」	10. 立ち上がってロープをつかみ、上を見る。
	② 「ヨイショ」
	11. Mの顔を見る。
	12. Mの顔を見て笑う。
	13. 座って揺られる。
	③ 「アッー」
	14. ロープをつかんで立ち上がる。
	15. Mの顔を見る。
	16. 座る。
	17. Mの胸に顔をつけ揺られる。
	18. 顔を上げMの顔を見る。
	19. 時計の方を指差すような動きをする。
	20. Mの顔を見る。
	21. 時計の方をしばらく指差す。
	④ 「アッー」

6. 天井を指差す。 ⑫ 「でんき、でんき」 ⑬ 「ユラリ、ユラリ、ユラリ」 Tがブランコを回す。「ちょっと回してみよう。」 ⑭ 「クルクルクル、ウァー」 ⑮ 「ウァー」 ⑯ 「ウァー」 T 「今度は反対回しだ。」 T 「いない、いない、いたー。」 ⑰ 「いない、いない、いたーは？いない、いない、いたーは？」 7. 頬をさわる。 8. 抱きあげてブランコに乗せる。	22. 天井を指差して見る。 23. 腕に顔をつけ揺られる。 24. 落ちそうになり、Mにしがみつく。 25. Mの顔を見る。 ⑤ 「アハハハ」 ⑥ 「アハハハハ」 ⑦ 「アッハ」 26. 止まると顔を伏せるように隠す。 27. 手を出す。
--	--

<写真3> ブランコに立ち上がり母親の顔を見る。



第11回 8月25日 「音声が多くなった」（トランポリン・約5分）

数字=動き ○数字=ことば・音声 C=本児 F=父親

おとなの行動	子どもの行動
1. Cが跳ぶのを見ている。 ① 「あ〜あ」 ② 「あ〜あ」 2. トランポリンにとび乗り、座ったまま揺らす。 3. 立ち上がり、手を出す。 ③ 「ピョン、ピョン、ピョン」 4. まねをして寝転ぶ。 ④ 「あーあ、疲れちゃった。」 ⑤ 「あー、疲れた。」 5. 立ち上がる。 ⑥ 「ヨイショ、あららら」	1. トランポリンで跳び始める。 ① 「ヨイショ、ヨイショ」 2. トランポリンに寝転ぶ。 3. 立ち上がって跳んで、寝転ぶ。 ② 「ウーウー」 4. 下りようとするが、Fの方を見る。 5. 手を握って跳ぶ。 6. Fの顔を見る。 7. バランスを崩して座り込む。 8. Fを見てうつぶせになる。 ③ 「アハハ、ウーン」 ④ 「アーイー、ヨイショ」 ⑤ 「アッ、ハッ」 9. 立ち上がるが、すぐにバランスを崩して倒れる。

6. トランポリンを揺らす。	⑥ 「アー」
⑦ 「たち、たち」	10. トランポリンのカバーの下を覗き、手をやる。
7. まねをして、倒れる。	⑦ 「アー」
8. カバーの下をのぞく。	11. 立ち上がって一人で跳ぶが、すぐに転ぶ。
9. 立ち上がって跳ねる。	⑧ 「よし、よし、ウー」
10. まねをして転ぶ。	12. 立ち上がってFの手をとって一緒に跳ぶが、すぐに尻もちをつく。
11. 立ち上がって手を出す。	13. Fの顔を見る。
12. 座ってトランポリンを揺する。	14. トランポリンから下り、坂を上って上まで行って下りてくる。
⑧ 「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」	⑨ 「ヨイショ、ヨイショ」
13. ついていくが坂の途中でぶつかりそうになる。	15. トランポリンに乗るが、すぐにバランスを崩して転ぶ。
⑨ 「オートト」	⑩ 「ディディ、エヘ、ヨイショ」
14. トランポリンに乗り、座って揺らす。	16. トランポリンから下りて坂に上って下りてくる。
	⑪ 「アー」
15. 座ってトランポリンを揺すっていたが、Cが乗ったときに倒れる。	17. トランポリンに乗る。
⑩ 「ウアー」	18. Fの顔を見る。
16. 立ち上がり揺らす。	⑫ 「ウー、ディュー」
⑪ 「ピヨンピヨンピヨンピヨン、アラララ」	19. 転ぶが、すぐに起きて、また転ぶ。
	⑬ 「イッヒュー」
17. Cについて歩く。	20. 立ち上がってFの顔を見る。
⑫ 「ウアー、アハハハ」	21. トランポリンの上を歩きだす。
18. トランポリンの上を逃げるように歩く。	⑭ 「キャーキャー、ヘヘヘ、フニャ、ヨシヨシ」
⑬ 「ハァ、ハァ、ハハハハ」	22. バランスを崩し、倒れる。
19. トランポリンから下りる。	23. 立ちあがってトランポリンの上を歩く。
	⑮ 「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」
20. 脇で座って見ている。	24. Fの手を持ってトランポリンの端に連れていく。
	⑯ 「ウウウウーン」
	25. 一人で跳ぶ。

① 実践事例のコミュニケーション分析

第2期では、視線、音声の増えた第6回と、音声が目立って多かった第11回の実践事例から、両親本児の行動分析を行なった。(表10、表11)

〔本児のコミュニケーション行動〕

表10を見ると、第5回にはなかった親への視線が第6回には10回見られ、音声も4回から7回に増えている。この点が前期との大きな違いである。第6回のブランコでは、視線が多くなったが、これは、いつもと違い、感情的、受容的なことばかけの多い母親を、本児が観察しているのではないと思われる。次の第11回のトランポリンになると、さらに音声の量も全体の39%と高い割合になっている。

〔両親のコミュニケーション行動〕

表11を見ると、どちらの回も感情・受容の声かけが全体の72%、53%と多く、指示や禁止・修正等の行動を規制する働きかけがなくなってきている。このことは、両親が本児の行動を肯定的に見れるよう

になってきたためと推察する。両親の受容的な行動が増すにつれ、本児の視線、音声は増えてきている。

表10 本児の行動分析（第6回・11回）

数字＝動作・視線 ○数字＝音声

分析項目 指導回数	動 作					親に対する視線			音 声		
	自発的	応答的	誘い かけ	無視・ 拒否	その他	注目・ 観察	誘い かけ	その他	感情	応答	誘い かけ
第6回	1. 3. 5. 7. 9. 10. 14. 16. 19. 21. 22. 23. 24.	26. 27.			13. 17.	2. 4. 6. 8. 11. 12. 15. 18. 20. 25.			①②③ ④⑤⑥ ⑦		
	38%	6%			6%	29%			21%		3%
第11回	1. 2. 3. 10. 11. 14. 16. 17. 21. 23. 25.	5. 12.		24.	7. 9. 15. 19. 22.	4. 6. 8. 13. 18. 20.			①②③ ④⑤⑥ ⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫ ⑬⑭⑮ ⑯		
	27%	5%		2%	12%	15%			39%		

表11 両親の行動分析（第6回・11回）

数字＝動作 ○数字＝ことば

分析項目 指導回数	感情・受容	賞賛・激励	指 示	禁止・修正	発 問	促 し	そ の 他
第 6 回 (母親)	①②⑤⑥⑦ ⑧⑨⑩⑪⑫ ⑬⑭⑮⑯ 3. 4. 5. 6.	③				④⑦ 1. 2. 7. 8.	
	72%	4%				24%	
第 11 回 (父親)	①②④⑤⑥ ⑨⑩⑫⑬ 1. 4. 7. 10. 13. 15. 17. 19. 20.					③⑦⑧⑪ 2. 3. 6. 8. 9. 11. 12. 14. 16. 18.	5. 19.
	53%					41%	6%

② 6～9月までのプレー場面の雰囲気、行動の適切さ

本児の行動評価表(表12)では、「親密感」「音声」「身振り・表情」のカテゴリーで良い結果が表れている。これは、両親の本児への親密感が増してきたことに対応している。しかし、模倣、誘いかけに応ずること、指差しにはあまり変化が認められなかった。

表13を見ると、前期と比べ、両親の「親密感」「受容」が少しずつ良い方向に向いてきたことが分かる。特に「親密感」が増し、その中でも「位置関係」「目の高さ」「表情」が良くなっている。これはプレー終了後のビデオ検討により、両親が本児への望ましい働きかけ方に気付いてきたことの現れであり、かわかりが改善されつつあると評価できる。また、「受容」も前期と比べ良くなってきたが、本児が楽しそうな声を出していても、その様子を見取って、「おもしろいね」「楽しいね」等と応じてやることはまだできない。また、うまく遊べない日もあり、波があった。

表13 「親の行動評価表」(プレー全体) 6～9月

表12

「本児の行動評価表」(プレー全体) 6～9月
○数字=指導回数

項目 \ 段階	I	II	III	IV
親密感		9 13	6 7 8 10 11 12	
模倣	8 13	6 9 11 12	7 10	
誘いかけ	13	6 7 8 9 10 11 12		
指差し	7 8 9 10 11 12 13	6		
音声		9 13	6 7 8 10 11 12	
身振り・表情		9 13	6 7 8 10 11 12	

項目 \ 段階	I	II	III	IV
親密感	位置関係	7 9	6 8 10 11 12 13	
	目の高さ	9 13	6 7 8 10 11 12	
	身体接触	6 7 8 9 11 12 13	10	
	ことばかけ	6 9	7 8 10 11 12 13	
	表情	9	6 7 8 10 11 12 13	
受容	表現をキャッチする		6 7 8 9 10 11	12 13
	返すタイミング		6 7 8 9 10 11	12 13
	返すことば	11	6 7 8 9 10 12 13	
	返す動作		6 7 8 9 10 11 13	12
働きかけ	タイミングのよい誘い	6	7 8 9 10 11 12 13	
	引き付けの動き	6 7	8 9 13	10 11 12
	ことばの早さ・大きさ	9	6 7 8 10 11 12 13	

(3) かかわりを求める動きが見られる。

(10～12月ころの様子)

この時期の本児は、視線や動きの中でかわかりを求める仕草が見られるようになった。音声、特に笑い声が多くなり、両親との遊びに楽しさが感じられた。両親も本児の気持ちや動きを受容し、タイミングよく働きかけることが見られるようになってきた。プレーは両親と本児とが行なった。また、面接時のビデオ検討ではプレーにおける本児とのかわかりを両親にできるだけ自己評価してもらうよう働きかけた。

第14回 10月22日 「誘いかけるような動きが見られた」（三輪車・約5分）

数字＝動き ○数字＝ことば・音声 C＝本児 M＝母親

母 親 の 行 動	本 児 の 行 動
1. 三輪車を持って坂の脇で見る。 ① 「おー、おー」 ② 「あらー、三輪車だけずーとこっちやった。」 2. Cのあとについて坂をのぼる。 ③ 「ヨイショ、ヨイショ」 3. 三輪車を持って脇によける。 ④ 「スー、トン」 4. Cのあとについて坂をのぼる。 ⑤ 「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」 5. 三輪車を持って脇によける。 ⑥ 「ウァー、スートン」 6. 三輪車を押して追いかける。 ⑦ 「アー、アー、待ってくれー。」 7. 三輪車を押してついていく。 ⑧ 「まてー」 ⑨ 「イテー、痛かったねー、痛かったなあ。」 ⑩ 「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」 8. 坂にのぼり、腰掛けてCを見ながらすべる。 ⑪ 「バックして、ここ乗ろうよ、Cちゃん、ここ乗ろうよ。」 ⑫ 「アラー、アハハハ、アラー」 ⑬ 「ヨイショ、ヨイショ」 9. Cを見ながら三輪車を押してトランポリンの回りを動く。 10. 方向を変え、追い掛ける。 ⑭ 「どっちにいくの？」 ⑮ 「待ってくれー、待ってくれー」 ⑯ 「スー、ヨイショ、ヨイショ」 11. 坂にのぼり方向を変える。 ⑰ 「Cちゃん乗ろうよ、ここ乗ろうよ、いーか、いーか」 ⑱ 「スー、トン、アラララ」 12. トランポリンを回るのがCを見て戻る。 ⑲ 「キタキタ、待ってくれー」 13. 三輪車をおして、坂をのぼる。 ⑳ 「マッテクレー、Cちゃん、ここ乗ろうよ、乗ろうよ。」	1. 三輪車を押しながら坂に上がり、手を離す。 ① 「アーン」 2. 押しながら坂を上る。 3. 途中でMを見る。 ② 「ヨイショ、ヨイショ」 4. 上で方向を変え、押しながらおりる。 5. Mの顔を見る。 6. 三輪車を押して坂を上る。 7. 上で方向を変えて、すべりおりる。 8. Mの顔を見る。 9. Mを振り返って見る。 10. 急いで坂に上る。 ③ 「ウァ、アハハハハ」 11. 方向を変えおりる。 ④ 「アア、キャー」 12. トランポリンの回りを急いで回る。 13. ブランコの前でころぶ。 ⑤ 「アー、イテー」 14. 立ち上がり三輪車を起こして、坂に上る。 15. 方向を変えMの後から腰掛けてすべる。 ⑥ 「アアア、アアア」 16. Mのあとについてトランポリンの回りに行く。 17. 途中でMの顔を見る。 18. 誘うように急いで坂に戻る。 ⑦ 「アハハハハハハ」 19. Mの顔を見る。 20. 腰掛けてすべる。 ⑧ 「エー、アアア」 21. 三輪車をおり、急いで坂にのぼる。 22. Mを見る。 ⑨ 「ウァー、キャー、キャーキャー」 23. Mを見る。 24. 方向を変える。

<p>㉑ 「ウァー、トーントーン」</p> <p>14. Cを見ながら腰掛けてすべる。</p> <p>15. トランポリンの回りを動く。</p> <p>㉒ 「Cちゃん、乗らないの、ここ乗らないの」</p> <p>㉓ 「待ってくれー、待ってくれー」</p> <p>16. Cを追いかけて坂にのぼる。</p> <p>㉔ 「頑張って、頑張った、頑張って」</p> <p>㉕ 「トーン」</p> <p>㉖ 「待ってくれー、待ってくれ」</p> <p>㉗ 「かじとって、はい、乗ろうよ、乗ろうよ」</p> <p>17. Cの後から坂にのぼる。</p> <p>㉘ 「ヨイショ、ヨイショ、ハイ、かじとって乗ってちょうだい。」</p> <p>18. 腰掛けておりる。</p> <p>19. トランポリンの回りを回る。</p> <p>㉙ 「ヨイショ、ヨイショ」</p> <p>㉚ 「アレー、アレー、待ってくれー、待ってくれよー」</p> <p>20. 三輪車に腰掛けて追い掛ける。</p>	<p>⑩ 「ヨイショ、ヨイショ」</p> <p>25. 腰掛けてすべりおりる。</p> <p>⑪ 「ウァーアー」</p> <p>26. Mの後についていくが、途中で坂に戻る。</p> <p>27. Mの顔を見る。</p> <p>⑫ 「ウァー、キァーキァーキァー、ハハハ」</p> <p>28. 坂の上で方向を変え腰掛けてすべりおりる。</p> <p>⑬ 「アー」</p> <p>29. Mの先になってトランポリンの回りを行こうとするが、また戻って坂にのぼる。</p> <p>⑭ 「アー、ヨイショ、ヨイショ」</p> <p>30. 方向を変え、腰掛けてすべりおりる。</p> <p>⑮ 「アー、アー」</p> <p>31. Mの顔を見る。</p> <p>32. 三輪車のタイヤをさわる。</p> <p>33. 三輪車を押して坂にのぼる。</p> <p>34. 方向を変え腰掛けてすべる。</p> <p>⑯ 「アー」</p> <p>35. Mの後についてトランポリンの回りに行く。</p> <p>36. 一回りしたところで戻る。</p> <p>37. Mの顔を見る。</p> <p>⑰ 「ウァー、キァーキァーキァー」</p> <p>38. 途中で三輪車を離す。</p> <p>39. 三輪車を押して逃げるように坂にのぼる。</p> <p>40. Mを見る。</p> <p>⑱ 「ウァハハハハー、アー」</p>
---	--

<写真4>

トランポリンの回りを三輪車を押して走る。



第20回 12月27日 「視線も音声も多くなった」（スベリ台・約4分）

<写真5>

父親に追いかけて急いでスベリ台に上る。



数字＝動き ○数字＝ことば・音声 C＝本児 F＝父親

父 親 の 行 動	本 児 の 行 動
1. スベリ台に上がる。	1. Fに走って近寄る。

2. スベリ台からすべる。
- ① 「ヒューン」
3. Cの後についてハシゴを上る。
- ② 「待て待て、ハハハハ」
4. Cと同じく腹ばいですべる。
5. Cに続いて上る。
- ③ 「待てー」
6. Cに続いてすべる。
- ④ 「ヒューン」
7. Cに続いて上る。
- ⑤ 「待てー」
8. すべりおりて、Cをつかまえる。
- ⑥ 「ヒュー、ほーら、つかまえた。」
9. すぐに立ち上がって、スベリ台に上る。
- ⑦ 「ヨーシ」
10. すべりおりる。
- ⑧ 「ヒューン」
- ⑨ 「あららら」
11. 後について上る。
- ⑩ 「待て待て」
12. 後についてすべり、Cをつかまえる。
- ⑪ 「ヒューン、Cちゃん、つかまえたぞ。」
13. 立ち上がってハシゴを上る。
14. 後についてすべる。
- ⑫ 「いくぞー、ヒューン」
15. 後についていきすべる。
- ⑬ 「ヒューン」
16. 後についてハシゴを上りすべりおりる。
- ⑭ 「まーて、待て」
- ⑮ 「1, 2, 3, 4, 」
- ⑯ 「ヒューン」
17. すべり下りて、Cを抱く。
- ⑰ 「ほーら、つかまえたぞ、つかまえたぞ。」
18. 立ち上がってスベリ台に上りすべる。
19. 下りてすぐにハシゴを上る。
- ⑱ 「待て待てー」
20. すべり下りてすぐに追いかけのように上る。
- ① 「ハッハー」
2. Fを見る。
3. ハシゴを上る。
- ② 「ヒーハー、ヒーハー」
4. Fの顔を見る。
5. 腹ばいになり足からすべる。
6. おりてきたFの顔を見る。
7. ハシゴを上る。
- ③ 「ヒッヒッヒッ」
8. 腹ばいで顔を伏せてすべる。
9. Fの顔を見る。
10. 急いでスベリ台に上る。
- ④ 「アハハハ」
11. 下で後からすべってきたFにつかまえられ、顔を
手で隠すようにして伏せる。
12. 起き上がってFの後に続く。
- ⑤ 「ヒー、ハハハ」
13. 腹ばいですべる。
- ⑥ 「ハーン」
14. Fの顔を見る。
15. スベリ台に上り、腹ばいですべる。
16. ハシゴを上る。
- ⑦ 「へーへー」
17. 反対側（左）の坂をすべる。
18. 身体を小さく丸めて顔を伏せる。
19. 坂を上る。
20. 腹ばいですべる。
21. 上にいるFの顔をのぞくように見る。
22. Fを見る。
23. 逃げるようにハシゴをのぼり反対の坂をすべる。
24. Fの顔を見る。
25. Fがすべるのを見る。
26. ハシゴを上ってすべる。
- ⑧ 「アー、アハハハハハ」
27. すべり下りたところでFに捕まえられ抱かれる。
28. 追い掛けるようにして上る。
- ⑨ 「ハッハーハー」
29. Fを見ながらすべる。
30. すぐにハシゴを上る。

①⑨ 「また行くな、待て待て。」	
21. 後についてすべる。	31. 反対側にすべりおりる。
②⑩ 「待て、待て」	32. Fの顔を見る。
22. 手を振って追いかける真似をする。	③⑩ 「ヒーハー、ヒーハー」
23. ハシゴを上る。	33. あわててハシゴを上る。
②⑪ 「1, 2, 3, 4, 」	
24. 上でCのからだをつかまえようとする。	34. 腹ばいですべる。
②⑫ 「あー、逃げられた、逃げられた。」	35. 顔を手で隠すようにしてFがすべるのを見ている。
25. すべりおりる。	36. 立ち上がってスベリ台に上り、腹ばいですべる。
26. Cを追いかけて上り、すべる。	③⑪ 「ハーハーハー、アツアツアー」
②⑬ 「まてー、ヒューン」	
27. ハシゴを上る。	37. ハシゴを上る。
②⑭ 「待てー」	③⑫ 「キャーキャー」
28. Cの頭をさわる。	
②⑮ 「つかまえたぞ、つかまえた、あら、逃がした。」	38. すべりおりる。
②⑯ 「待てー、ヒューン」	
29. Cを追いかけて上り、腹ばいになっているところをつかまえようと手を出す。	39. Fを見る。
	40. ハシゴを上る。
②⑰ 「ほーら、つかまえた。あらら、いっちゃった。」	③⑬ 「ハーハーハー」
30. 腹ばいで頭からすべる。	41. 腹ばいで頭からすべる。
②⑱ 「ヨーシ、ホラ。イテー」	③⑭ 「アー」
	42. Fを見ている。
31. Cを追いかけてハシゴを上りすべる。	43. ハシゴを上って頭からすべる。
②⑲ 「ウァー、ウァー、だんだん高度になってきた。」	③⑮ 「ハーハーハー」
32. Cに続いて上り、すべる。	44. ハシゴを上りすべる。
③⑰ 「ヒューン」	

① 指導事例のコミュニケーション分析

〔本児のコミュニケーション行動〕

本児の第3期の大きな特徴は、表14に見られるように、誘いかけの動作、視線が出てきたことである。これは、本児が両親とのかかわりを求めるようになったことの現れである。しかし、本児の動作や視線での誘いかけは注意深く見ていないとはっきりとは分からない程度のものである。

また、14回目では、両親の指示的なことばや発問に対しても本児はそれに応じて行動している。これは、親への愛着、親密感が増してきたためであると思われる。

〔両親のコミュニケーション行動〕

表15からは本児への促し行動の割合が、第14回には53%、20回には57%と、第2期、第6回の24%、第20回の41%に比べて増えている。また、ことばかけも第2期に比べて増えている。

しかし、賞賛・激励の行動はほとんど見られなかった。これは両親の要求水準が高く、また、本児のわずかな伸びを見取る眼が、まだ養われていないためであると考えられる。

表14 本児の行動分析（第14回・20回）

数字=動作・視線 ○数字=音声

分析項目 指導回数	動 作					親に対する視線			音 声		
	自 発 的	応答的	誘 い け	無視・拒否	その他	注 目・観 察	誘 い け	その他	感 情	応 答	誘 い け
第14回	1. 2. 4. 6. 7. 10. 11. 12. 14. 15. 24. 29. 33. 35. 39	16. 20. 25. 28. 30. 34	18. 21. 26. 36.		13. 32. 38.	3. 5. 8. 9. 19. 23. 31.	17. 22. 27. 37.		①②③ ④⑤⑥ ⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫ ⑬⑭⑮ ⑯⑰⑱		
	26%	11%	7%		5%	14%	7%		31%		
第20回	1. 3. 5. 7. 8. 13. 15. 16. 17. 19 20. 26. 28 31. 34. 36 37. 38. 40 41. 43. 44	11. 12. 18. 27. 30. 33.	10. 23.			2. 4. 6. 14. 21. 25. 29. 32. 35. 42.	9. 22. 24. 39.		①②③ ④⑤⑥ ⑦⑧⑨ ⑩⑪⑫ ⑬⑭⑮		
	37%	10%	3%			17%	7%		25%		

表15 両親の行動分析（第14回・20回）

数字=動作 ○数字=ことば

分析項目 指導回数	感情・受容	賞賛・激励	指 示	禁止・修正	発 問	促 し	そ の 他
第 14 回 (母親)	①②④⑥⑨ ⑫⑬⑮⑰⑲⑳ 1. 2. 10	㉔	⑪⑰⑲⑳㉔		⑭⑳	④⑤⑦⑧⑩⑬⑮ ⑯⑰⑲⑳㉔㉕㉖ 4. 6. 7. 9. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.	3. 5. 11
	27%	2%	8%		4%	53%	6%
第 20 回 (父親)	④⑥⑦⑧⑨ ⑪⑫⑬⑮⑰ ㉔㉕㉖㉗㉘ ㉙㉚ 4. 8. 4. 8. 12. 14. 30. 32.					①②③⑤⑩⑭⑮ ⑰⑲⑳㉔㉕ 1. 2. 3. 5. 7. 9. 10. 11. 13. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 31.	⑮㉔ 23.
	38%					57%	5%

② 10～12月までのプレー場面の雰囲気、行動の適切さ

本児の表16からは、両親の誘いかけに対して応じることが多くなったことが分かる。これは、両親への親密感が増して、遊びが楽しくなった結果であろう。この時期は、ひとりで勝手に遊ぶことが少なくなり、両親との遊びを楽しむ様子が見られた。

また、親の行動評価(表17)を見ると、行動全体が回を重ねるごとによい方向に向っていることが分かる。特に表情が良く、笑顔が多くなったのは両親が、本児との遊びは楽しいと感じるようになったこととの現れである。

表17 「親の行動評価表」(指導日のプレー全体)

10~12月

○数字は指導日の回数

表16 「本児の行動評価表」(プレー全体)

10~12月

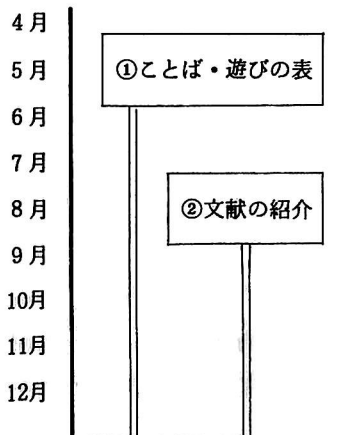
○数字=指導回数

項目 \ 段階	I	II	III	IV
親 密 感		15	16 17 18	14 19 20
模 倣		14 15 17 18 19 20	16	
誘 い かけ		15	14 16 17 18 19	20
指 差 し	14 15 16 17 19 20	18		
音 声			15	14 15 17 18 19 20
身振り ・ 表情		15 16	14 17 18	19 20

項目 \ 段階	I	II	III	IV
親 位 置 関 係			14 15 16 17 18 19	20
目 の 高 さ		15	14 15 17 18 19	20
密 身 体 接 触		14 15 18	16 17 19	20
感 ことばかけ		16 19	14 15 17 18 20	
表 情			14 15 16 17	18 19 20
受 表現をキャッ チ する		15	14 16 17 18 19	20
返すタイミング		14 15	16 17 18 19 20	
返すことば		14 15	15 18 19 20	
容 返す動作		15	14 16 17 18 19	20
働 タイミングの き よい 誘い		14 15	16 17 18 19	20
かけ 引き付ける 動 き		14 15	16 17 18 19	20
ことばの早さ ・ 大きさ		14 16	15 17 18 19 20	

2. 養育についての理解

家庭での本児との遊びやかかわり方についての指導を以下に行なった。



① 「ことば・遊びの表」(表18)は、指導者にとっては、本児の家族とのかかわりの様子を知るために、また、両親にとっては本児とのかかわりを深めていくことを意識づけるために用意したものである。来所ごとに家庭での様子を記入したものを持ってきてもらい面接場面で、これをもとに家庭での遊びの内容や、本児とのかかわり方などについて検討した。表については、最初は、何を書いてよいか分からないということで、ほとんど書いてこない状態であった。しかし、徐々に書いてくるようになり、7月頃には多くの遊びが記入されるようになった。この表によれば、特に両親と一緒に遊ぶことが多くなったことがうかがわれる。

② 参考文献として、「『ことばをはぐくむ』中川信子著」，新潟県教育庁義務教育課発行の就学指導資料「ことばに障害のある子」などを紹介し，家庭で読んでもらい，また，面接場面でも読み合せをして，子どもの発達やことばの発達についての理解を図った。

また，面接場面で父親からは，「家で木にブランコを作って本児を乗せた。」「プロレスごっこをやってみた。」ことなどが，母親からは，「寝るときに昔話をした。」ことなどが報告され，遊びを通して本児とのかかわりを深めようという両親の意欲が感じられるようになった。これは，本児と一緒に遊び，かかわりを持つことがことばの発達を促すために大切であることが，指導者と話し合ったり，文献を読んだりする中で理解できたためと考える。

表18 「家庭におけるあそび・ことば一覧」 No.1

	祖 父	祖 母	父 親	母 親	姉	ことば
5/14 5/20	・お茶のみ ・高い高い	・本を見る ・ぶらんこ	・自転車をして かけて ・トラクタ ーに乗る	・本を見る ・オモチャ のかたづけ	・おいかけ っこ ・ぶらんこ ・スベリ台	
5/21 6/17	・お茶のみ ・高い高い	・本を見る	・高い高い ・子守歌 ・シャボン 玉 ・花火 ・ファミコン	・高い高い ・本を見た ・ぶらんこ ・子守歌 ・手あそび ・オモチャ のかたづけ	・スベリ台 ・ぶらんこ ・バイク ・シャボン 玉	おいしい
6/18 7/1	・高い高い	・本を見た ・散歩した	・高い高い ・自転車 ・子守歌 ・花火 ・おすもう ・犬と遊ぶ ・おいかけ っこ	・ブランコ ・本を見た ・子守歌 ・オモチャ のかたづけ ・高い高い ・イナイイ ナイ，パイ	・スベリ台 ・ブランコ ・バイク ・車に乗った	・さきだん ごの，あん こをみて 「あち」 ・コーヒー ・パンを見て 「パンパン パン」

IV 指導の成果と今後の課題

1. 本児の目標について

本児の実態から「かかわりの発達」を課題としておさえ，課題達成のため以下の二つの目標を設定し指導した。

① 「簡単な働きかけに応ずることができるようにする。」

② 「身振りや音声で要求や感情，意志を伝えることができるようにする。」

①の目標については，第1期，2期で両親と手をつないでトランポリンを跳んだり，呼び掛けに対して振り向いたりするなど，単純な促し行動に対して応じる様子が見られたが，第3期に入ると，両親の誘いに応じたり，三輪車の座席に座るように指示すると，それに応じたりするようになった。これらのことから，働きかけに応ずることができるようにするという目標は達成できたと考える。

②の目標については，視線や動作の中で両親を誘いかけるような行動が見えたが，はっきりとした身振りや音声での要求，意志の表現はまだ見られない。

遊び場面で要求行動を引き出すには，両親との遊びが楽しくてしかたがない，という状況を作り，遊びへの興味をより一層深めてやる必要がある。そこから，「両親と一緒に遊びたい」という要求が生まれ，その要求を伝えようとするようになると考える。その点から，本児と両親と一緒に楽しむことができる遊びを増やしてやる必要があり，これは今後の課題である。

2. 両親の目標について

両親については、「かかわりかたの改善」を課題としておさえ、課題達成のため以下の二つの目標を設定して指導・援助を続けてきた。

① 身振りや表情、声などから、子どもの気持ちを受けとめ、適切に応じてやることができるようにする。

② 望ましい養育の在り方についての理解を図るようにする。

①については、子どもの表現を受けとめ、適切に応じることが、少しずつできるようになってきている。5、6月頃は、本児との遊びにどのようにかかわって良いか分からず、本児の後からついていく様子が多く見られた。しかし、本児と一緒に遊ぶうちに、目の高さや位置関係に気を配るようになり、また、本児の遊びのペースに乗って遊びを共に楽しむ姿も見られるようになった。また、6月頃のプレー終了後の検討では、両親は、「どうやって遊んだらよいかわからない。どんなことばかけをしたらよいかわからない。」と言っていたが、11月の検討場面では、「ここは、うまくできた。」などと自己評価できるようになった。このような変容が見られたのは、毎回、プレーを始める前に、その日の留意点を確認してからプレーに入ったこと、終わってからプレーの様子を録画したビデオテープにより、場面検討を繰り返してきたためと考える。

②の養育についての理解は、家庭において本児の発達に合わせた遊びを用意し、一緒に遊ぶことがことばの発達を促す上で大切であることを指導した。この点については、両親の次のような話の内容から家庭でも本児と両親のかかわりが深まってきていることがうかがわれる。

母親は、「Cちゃんと遊ぶことが楽しい。それは、私が楽しく遊ぶとCちゃんも楽しそうに遊んでくれるから。」「以前は、会社に出かけるとき声かけをしても、振り向かなかったので声かけもしなかったが、このところ、反応してくれるので出かけるときや、帰ってくると声かけをするようになった。」と話してくれた。また、父親も、「疲れるけど、おもしろい。」と感想を述べるようになった。

今後は、本児と両親との間に築かれた望ましい関係を、家族全体に広げていくことが課題である。

V おわりに

本事例を通して、子どものかかわり行動を引き出すためには、子どもの生活を豊かにし、家族と一緒にいることが楽しいものにすること、そのためには、家族がどのようにしたら一緒に楽しめるかという視点でかかわり、共感関係を作る必要があることが分かった。

本児が親と手をつないで、楽しそうにして帰る様子を見て、発達を支えるのは家族であると強く感じた。

事例研究を進めるにあたって、ご指導いただきました新潟大学教育学部の田先由紀子先生、新潟県中央児童相談所の薄田祥子先生、そして、多くの方々にお礼申し上げます。

引用文献

註1 梅津耕作：自閉児の行動評定，（金子書房，1982），P115

註2 同上

参考文献

- (1) 中川信子：ことばをはぐくむ，（ぶどう社，1987）
- (2) 松坂清俊：トータルアプローチによることばの育て方，（日本文化科学社，1987）
- (3) 岡本夏木：子どもとことば，（岩波書店，1982）
- (4) 猪岡武・村井潤一編：障害児臨床学，（福村出版，1983）
- (5) 中山文雄：精神遅滞児教育における授業分析，（明治図書，「障害児の授業研究」第10巻所収）
- (6) 上野一彦：ことばの発達の評価法，（日本文化科学社，「精神薄弱児教育」No.240 所収）
- (7) 新潟県教育庁義務教育課：ことばに障害のある子，（心身障害児就学指導資料）